

## 特集：卒業

## 卒業する皆さんへ

齊藤 康典（筑波大学 生命環境科学研究科）

卒業おめでとうございます。

2004年11月に下田臨海実験センターの教員から、筑波大学の教員に移動して、陸に上がったカップのように何をしたらよいのか、また、何をやらされるのか全く分からないうちに、2005年春に入学する新入生のクラス担任なるものを拝命しました。そして、そのときは大学のクラス担任が、中学や高校のクラス担任と同じことをするのではあるまいと思っておりました。それは、私が大学に入ったとき、教養の二年間、クラスの担当教員なる先生が決まっておりましたが、その先生の授業をとらなければ、年2回学期末に成績表を受け取りに行き顔面を合わせるだけと言うものでしたので、それにちょっと毛が生えた様なものであろうと考えていました。

ところが、筑波では入学後一年間はフレッシュマンセミナーやクラスセミナーで毎週学生さんと顔を合わせ、2年目は専門語学で一学期間いっしょに勉強し、またそれ以外にも、学生さんが持ってくる様々な書類に印を押したりサインしたり、さらに大学生活、人間関係、そして進路の悩み等の相談など、学生さんと接する機会が非常に多く、中高の担任の先生ほどではないが、まさに担任だと納得しました。このような担任制度は少し過保護ではないかと、最初は思いました。しかし、学生さんと接する機会が多いことで、現在の学生さんたちの生活や考え方に触れられ、私にとって非常に良い勉強になりましたので、担任制度も結構良いかと思えるようになりました。クラスの学生さんたちと話してみても、各々が個性的で、そして、意外にしっかりとした考えを持ち、自分の将来を見つめて勉強をしている人が少なからずいることがわかりました。私たちの年齢の者がよく口にする「今時の若い者は・・・」と言った若者をひとまとめにして論じることが、とりもなおさず私たちが現実をよく理解していないことの表れであると分かりました。貴重な体験と勉強をさせてくれた皆さん、ありがとうございました。

さて、私に良い勉強機会を与えてくれた皆さんが、晴れて卒業するいま、一つエールを送りたいと思います。皆さんが入学した当時は景気も好調で就職先はいっぱいあると言われていたのが、卒業間際の一転してとても厳しい時代になってしまいました。就職口探しも大変だったでしょうし、どうにか就職してもこの先その会社がどのような状況になるかもわかりません。また、大学院へ進学する多くの人たちも、当面の就職難には関係ないかもしれませんが、修士課程が終了する2年後も状況が良くなる見込みはありません。さらに、博士課程終了まで大学に残ってもその先が見えないのが現状です。しかし、何でこんなに悪い巡り合わせになったのだろうと嘆くより、このような社会状況の時にこそ、自分のやりたいことをじっくりと考えて見つける良い機会と考えましょう。会社に採用されるといった受け身の発想を転換して、自ら起業するぐらいの心意気でがんばってください。自ら選んだ進路なら、たとえ障害があっても、挫折しても悔いがないと思います。そして、新しい生活を始める皆さんに一言「Don't worry! なるようになるさ」。ちょっと無責任な言葉のようで、応援の言葉にはふさわしくないかもしれませんが、自分の力でどうにもならない時は、落ち込んだり焦ったりしないで、適当にやり過ごし、気張りすぎないで自分のやりたいことを貫いてください。

最後に、健康だけは十分気をつけて新しい生活を送ってください。健康であれば、何度でもチャレンジできますから。それでは、皆さんの将来が悔いのない素晴らしいものでありますように。

Contributed by Yasunori Saito, Received April 17, 2009.